

令和3年度 企画展

田辺市に残る災害の記録

主催 田辺歴史民俗資料館
会期 令和4年2月26日（土）～3月27日（日）
会場 田辺歴史民俗資料館 企画展示室（田辺市文化交流センター（たなべる）2階）
入館者 386名

会場の様子

第1章 はじめに



私たちが住む日本は、豊かな自然に恵まれた国である一方、自然災害が多い国として有名です。平成23年紀伊半島大水害では、田辺市も大きな被害を受けています。過去の災害の経験から未来へつないでいくため、先人たちが残してくれた災害の記録を紐解きます。

第2章 明治大水害の記録



和歌山県水害史上最悪の1247名の方が犠牲になった明治22年大水害は、約3日間で降雨量1295mmという記録的な集中豪雨となりました。当時の様子を伝える新聞や日誌、被災状況を記録した絵図、ご神体を避難させている様子を描いた絵図など、災害の様子を今に伝えています。

第3章 南海地震・津波の記録



南海地震は、およそ 100 年から 150 年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震です。田辺市では、1707 年の宝永南海地震、1854 年の安政南海地震、1946 年の昭和南海地震の記録が伝わっています。記録には、地震や津波の様子、被害状況や救援事業など後世への教訓として、様々なことが記されています。

第4章 ^{きた}来るべき災害に備えて



毎年のように全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生しています。

災害時は想定にとらわれず、自らの命を守るため、最善を尽くすことが重要になります。

先人たちは、災害の恐ろしさや教訓を、後世を生きる私たちに伝えるため、古文書や石碑、言い伝えなど様々な方法で災害の記録を残してくれました。

それらの記録は多くの人たちが長い年月にわたり守り続け、現在まで伝わっています。これらの文化財を皆さまとともに未来へつないでいきます。

嘉永七年 田邊洪波之圖

これまで幾度となく災害に見舞われ、尊い命と財産が犠牲になってきました。
先人たちは、災害のたびに町を復興させ、現在まで続く田辺市を作ってきました。
今回は、明治22年の大水害と宝永・安政・昭和の南海道地震を中心に、先人たちが残してくれた災害の記録を紐解き、今後想定されている災害に対して、自らの命と地域の文化財を守る一助になれば幸いです。

田辺市に残る災害の記録

1707年 宝永南海道地震

1854年 安政南海道地震

天変諸事記
嘉永七年寅十一月田邊洪浪之圖



令和4年

2月26日(土)

～3月27日(日)

田辺歴史民俗資料館企画展示室

田辺市東陽31番1号
田辺市文化交流センター(たなべる)2階

午前9時30分～午後5時

休館日 毎週月曜日
3/22(火)・24(木)
但し3/21(月・祝)は開館

- 主な展示資料
- ・明治廿二年十月一日大阪朝日新聞附録
 - ・芳養川流域被災図(市教育委員会)
 - ・明治22年水害絵図(長野八幡神社蔵)
 - ・万代記(闘雞神社蔵)
 - ・田辺町大帳(闘雞神社蔵)
 - ・天変諸事記(市図書館) ほか

1889年 明治22年大水害

明治廿二年十月一日大阪朝日新聞附録
槇山の被災状況写真



1946年 昭和南海道地震

2011年 平成23年紀伊半島豪雨大水害



お問合せ 田辺市文化振興課 0739-26-9943
田辺歴史民俗資料館 0739-25-6644

田辺歴史民俗資料館HP

新型コロナウイルス感染症拡大等の状況により急遽内容が変更となる場合があります。